

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人紫雲会		
事業所名	グループホームかわたな		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 1 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4271200471-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、町内の中心部に位置しており、周辺に病院やスーパー・公共機関などがあり、生活環境が整っている地域であるため、家族の方は勿論の事、馴染みの方が足を運びやすく、立ち寄って頂きやすい。また、職員は入居者様の思いに耳を傾け、役割や楽しみを持って生活出来る環境や空間作りを行い、個別に馴染みの場所へ外出している。理事長や代表者は、職員の離職が出ないようにこの思いで、働きやすい職場環境・休暇体制などを整えてもらい、職員が明るく安心して働けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の高齢化が進み、入居者毎に支援できる内容が変化している現状を考慮し、「利用者一人一人に応じた支援」を実施する事がホームの課題となり、課題にあった支援が出来るよう、職員は日々の生活状況からその思いを把握できるよう丁寧に支援に当たっている。この丁寧な思い把握の中、近年家族の協力の下、入居者の出生地へ外向く事を支援させて頂く機会があり、入居者に感動して頂き、この喜びの音が職員の励みにもつながっている。夏祭り・文化祭・敬老会・日々の外出支援等の機会を通じ、入居者が地域住民の方や家族と話し触れ合いの場を設ける事で、充実した生活を過ごして頂けるよう支援している。また近年では地域若年層の核家族化が進み、「おじいちゃん・おばあちゃん」と一緒に生活する機会が減少している事もあり、近隣小学校への介護教室(高齢者への理解)を実施する事もあった。このようなホームの姿勢から認知症への理解を地域社会へ広く求める積極的な姿勢を感じ取る事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目につく場所に掲げていると共に、ミーティングの際等に理念を踏まえたうえでケアが実践されているかなど、話し合う機会を持っている。	一人ひとりの入居者の思いを大切に、不安なく楽しく生活して頂く事を常に意識してホーム職員は日々の生活支援を行っている。また、各種研修の受講や近隣介護施設と共同してスタッフ職場実習会を実施する事で更なるスキルアップを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭や敬老会等、町の行事に参加したり、地域の催し物に足を運んでいる。又、入居者様の馴染みの美容室などを引き続き利用出来る様にしている。	近隣小学校にて介護教室の実施・夏祭り・文化祭・敬老会・日々の外出支援等の機会を通じ、地域住民や家族と交流を図り認知症専門の介護施設としての役割を理解して頂くよう活動している。また、近年では地域社会の高齢化により、入居相談や親族の介護方法について地域の方から様々な相談を受ける事も増加しており、対応できるよう更に職員の知識充実を図るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校の敬老福祉についての学習会にファシリテーターとして参加させてもらったり、学生との交流会や実習を積極的に取り入れ認知症高齢者についての理解を深めてもらえる様努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアにあたっての職員の迷いや疑問についても議題に取り上げ、その解決方法についてのアドバイスや皆さんからの意見を求めケアに活かしている。	地域包括・民生委員・入居者及びその家族が会議に参加し、日々の生活状況や行事計画について話し合いが行われている。そこで出た意見について職員間で再検討がなされ、運営に活かされている。9月に開催された会議には入居者が参加しており、入居者本位の生活支援を行なうというホームの姿勢が垣間見える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いている。その他でも疑問や悩みについては相談・アドバイスを受けている。	行政担当職員とは運営推進会議・介護保険情報・日々の運営の相談を通じ、ホーム運営について知って頂くと共に、協力してもらいたい事があれば率直に意見交換できる関係を構築している。近年では行政機関と共同して長寿の方の表彰式を開催する等の取組みもあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会において、身体拘束についての行為の確認と事例の検討を行いケアにおいても充分配慮を行っている。安全確保の為、やむを得ずセンサーを使用する場合にはご家族の了承を得ている。	身体及び言葉によって入居者の行動を制限しないケアができるよう研修会・日々の記録・ミーティングを通じて、知識・技術の習得に励んでいる。ホーム独自で安全委員会を組織し、入居者の生活状況を元に個人個人にとって身体拘束に該当しないか確認・改善のプロセスがとれるよう運営している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学んだ内容を自分たちにもあてはめ実際に評価も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ必要とする事例もない為、学ぶ機会も特別には持っていないが、必要な時が来た場合には行政に相談し指導を受けられる体制はとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時はその経緯を文章を添え分り易く説明し、必ず同意書へのサインをもらい、ご家族が抱いた不安や疑問についても解消できる様説明を行っている。又、契約については契約を交わすまでに信頼関係の構築を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会時に意見や要望を聞き、ミーティングや申し送りで伝え運営推進会議で報告し、サービスの向上につなげている。	入居者及び家族からの意見は、面会時・電話連絡時・家族アンケート実施時に伺う機会があり、改善点があれば会議等を実施し運営に取り入れるよう体制が整っている。家族意見を丁寧に「聞く」体制を長年とってきた成果もあり、退所された入居者の家族からも現在も相談を受ける事もあり、良好な関係が伺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に業務の中で出た意見も踏まえ、ミーティング時に再度検討するなど、職員の意見を出来るだけ反映するよう努めている。	職員・管理者等が一丸となって支援を行ない、職員より意見があれば運営に取り入れる風通しの良い体制が整備されている。また、職員の勤務体制や産休の配慮についても運営側に理解があるので職員の定着率も高く、働きやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の年齢・家族構成を踏まえた上で仕事に従事できる環境を作り、業務時間の調整を行っている。また、仕事以外でも職員同士で楽しく過ごせる機会を持つよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の特性を踏まえ、得意な仕事は更なるレベルアップを目指し、力不足のところは再度勉強の意味を込め、それぞれに目標と意義を持ち研修に参加している。また、その知識を共有し実践に活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を開き情報交換や勉強会を行っている。その他でも疑問やケアについての悩み等はその都度電話や訪問などでお互いにアドバイスを受けたり行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、入居者様の不安事や要望など情報を聞き、入居されてからも入居者様の想いに耳を傾け、心の支えとなり安心した生活を送れるようまずは信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安事や困っている事、要望などに耳を傾け、現状を把握することで想いを共有し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族の想いを汲み取り、いま特に何が必要なのか見極め、心身状況や要望など聞きながら適切なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の想いや要望を伺いながら暮らしを共にする者同士、職員に何でも話しやすい様な関係を築ける様務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族からの要望などを伺いながら、ともに協力し合い、入居者様とご家族の絆をより深められる菅家をきずいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人に会ったり、場所に出掛けたりしながら関係が途切れない様、個別の支援に努めている。	馴染みの場所や人については家族や入居者より以前の生活状況や交友関係を把握し、外部との縁が途切れないよう手紙・電話・外出支援を実施している。最近では、入居者が以前住んでいた思い出の場所へ家族の協力の下出向く機会があり、入居者からの「ありがとう」という言葉が職員への励みにも繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を見ながら職員が会話の橋渡しを行い、入居者様同士が関わりを持ち支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても必要に応じて連絡や相談に応じ、関わりが継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いや希望を伺う時間を取り入れ、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族や馴染みの方の協力を得ている。	表現が困難な方の思いを汲み取るためには、日々の会話が重要である事を職員が意識し、記録にとる事で入居者が真に望んでいる事を支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴や馴染みの物をご家族に記入して頂いたり、日々の会話の中で伺ったりしながら把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を見ながら心身の状態も合わせ、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が各担当を決め、課題やケアについてミーティングなどで話し合っている。担当者会議では入居者様とご家族との話し合いを行い、介護計画を作成している。	介護計画は入居者の日々の生活状況を丁寧に把握し、担当職員・ケアマネージャー・家族の意見を基に入居者の身体・メンタル面に応じた支援が行えるよう作成している。入居者の生活状況に変化が生じた場合は、迅速に計画変更する事ができるよう記録・報告を徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの気づきなど個別に記録し、職員間で情報を共有している。実行表を活用し、モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の状況を把握し、状態や状況の変化が見られた時はその都度対応できる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、見物・ふれ合い等関わることで、思い出したり楽しんだりして頂くように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長とは以前からかかりつけ医として受診されている方が殆どで、信頼もあり他の医療機関とも適切に対応できている。	ホームは医療法人が母体となっており、理事長(医師)は入居者の生活状況を日々観察し、その体調面を把握している。そのため入居者及び家族が身体面で不安なく過ごせる環境があると感じられた。また歯科・眼科等の個人毎の専門医療については入居者の疾病状況に応じた適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所の看護職員にすぐ相談できる体制をとっており、相談記録も残し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間は入居者様が不安の内容に面会を行っている。また、ご家族ともよく話し合い病院関係者も含めて退院の計画を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早い段階から話し合いを重ね、その都度ご家族の意向を確認している。お互いが納得し職員も情報を共有してチームでの支援に取り組んでいる。	重度化した場合は主治医・家族・入居者の意見に基づいて終末期支援を行うか決定し、ホームで可能な最善の支援を行なえるよう知識・技術の習得に励んでいる。また最近では入居者及び家族のメンタル面についてもケアできるよう、近隣葬儀社主催の「かなしみを抱える人への接し方」セミナーにも参加予定であり、終末期支援への意識が高いと感じた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・勉強会・消防署による講習会など、職員全員が緊急時に対応出来る様、定期的に訓練・講習会に参加し技術向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に日中や夜間時・自然災害へ対応した避難訓練を行い、地域の消防団も参加・協力してもらえる体制を整えている。	職員は定期的な避難訓練を通じて、消火器操作方法・避難誘導・緊急時の役割分担について理解している。避難訓練時に消防より指摘された反省点については改善点として職員が情報を共有し、改善に取り組む体制が整っている。	備蓄品の食糧品について、消費期限の管理できる一覧表を作成する事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの性格を把握し、その人らしい生活を尊重して言葉かけや対応を行っている。	入居者は「人生の先輩」であるという意識の下に、目上の人に対する基本的マナーは当然として日々の支援にあたっている。また誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない事を職員一同意識しながら会話・生活支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で入居者様の思いや希望を引出、可能な限り職員が支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話の中で希望がないか尋ねたり、ひとつひとつの行動を、その方のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ(化粧・衣服)が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には誕生者の好まれる食事を提供している。又、普段の食事でも入居者様が好まれる物を把握し、出来る方にはスタッフと一緒に下ごしらえ等調理に携わってもらっている。	献立は入居者の要望を取入れ、栄養面や入居者一人ひとりの咀嚼力に応じたメニューとなっている。また希望される方には食事に関わる一連の作業(準備・下ごしらえ・片づけ)に関わって頂く事で、その残存能力の向上に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を把握・確認し、入居者様の好まれる物を食事・水分に取り入れる他、形状・食器類の工夫を行い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は、入居者様が納得のいくまで口腔ケアをして頂いている。ご自分で出来ない方にはスタッフが口腔ケア・義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔・習慣をチェックし、声掛けトイレ誘導などを行い、トイレでの排泄を大切にしている。	個人個人の排泄の習慣を職員が把握し、入居者が不安なく排泄を適切に実施できるよう支援が行われている。失敗した時はさりげない対応・声かけを行い、入居者の羞恥心を傷つけないよう支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品などを多く取り入れる工夫をしたり、個々の排便習慣を理解し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日準備し、個々の体調をチェックしながら希望に添えるように安全に配慮し入浴を楽しんで頂ける様実行している。	浴室環境は清掃が行き届いており、浴室内は転倒が生じないよう用具が整理されていた。入浴は入居者の希望の添える時間に入れるよう業務体制が整っており、また、季節に応じてゆず湯を実施するなど入浴を楽しんで頂く工夫がなされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の離床時間を増やし、心地よく眠れるよう個人の状態にあった寝具の調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を個々に分かりやすいように記入し、変更時も話し合い、マニュアルに沿った支援をしている。又、分からない事は主治医に尋ね、入居者様の状況把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・特技を生活するうえで引き出す事で、楽しみや気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じて頂くよう、体調に配慮し季節ごとに外出できるよう努めている。また、ご家族と協力し出掛けるよう努めている。	日常的に近隣の散歩や買物等の外出支援を行い、入居者が外部の環境に触れる事で気分転換や四季の季節感を感じて頂くよう支援している。近隣の温泉施設である「しおさいの湯」で入浴や食事等の外出支援も実施しており、入居者に楽しんで頂いている状況である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は財布を持参し、入居者様が欲しい物を購入できる様支援している。また、場所によっては外出が困難な方には必要な物を代行して購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望や気持ちを考え、時には声かけして電話を掛けたり、文字を書けない方に関しては手紙・ハガキの代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル席・畳・座椅子・ソファなどを配置し、それぞれが居心地の良い場所で時間を過ごせるように工夫している。季節感を感じられるような空間作りをしている。	リビングとテラスが通じており、天気の良い日には日光浴を楽しむ事ができ気分転換に最適である。入居者が集まるリビングは机や畳の間等が適切に配置され、ゆったりとした日常生活を送る事ができる環境がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面を考え、清潔で生活しやすい空間作りや、入居者同士の相性を考慮した居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安全に生活しやすいように使い慣れたものの配置を考え、写真や飾り物を見ながら安心し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の入居前の生活及び生活習慣を出来る限り尊重できるよう、家具の配置や持ち込み品について配慮されている。整理整頓がきちんとなされ、入居者が住みやすいよう清掃が実施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を把握し、安全に生活出来る様、必要に応じて声掛けや見守りを行い、自立した生活が送れるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は勿論、職員全員で考えた介護理念もあり、目につきやすい場所に掲げ、皆で想いを共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、小・中・高校生、保育園児との交流を定期的に行っている。また、入居者の馴染みの地域、馴染みの方との関係が途切れないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生が高齢者福祉を学ぶ授業に積極的に協力したり、質問や対応の仕方などを分りやすく地域の方々に伝える機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見やアドバイスは、スタッフミーティングや申し送りで報告し、皆で考え改善に活かし実践につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加され、ホームの現状を見て頂き、報告しながらサービスの確認をしてもらっている。介護やケアプランの相談にも応じてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準を理解し、研修を受けたり委員会など職員間で話し合い、ケアの工夫に努め安全面を配慮している。入居者の思いを尊重しつつ、定期的に見直すなど実践出来ている。		

7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、学びながら入所者様の身体状況の観察や、介護における対応など、お互いが気付いた事について話し合い、注意しあい改善するようにしている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、地域包括センターや支援事業所のケアマネージャーへ尋ねたりして、学ぶ機会を設けている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して入所して頂ける様、ホームの特徴を細かく説明する他、ホーム内を見学・確認してもらい納得して頂いて契約を交わしている。又、介護制度の変更時も説明と同意を得ている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との面会時に意見や要望を聞き、ミーティングや申し送り等で伝え運営推進会議で報告し、サービスの向上につなげている。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の意見やミーティングで要望などを話し合い、その都度対応し改善したり、内容によっては代表者から理事長へ相談出来る様に実践出来ている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務パターンを配慮したり、急な私用にも出来るだけ対応できるように環境を整えている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を全員に回覧し、積極的に研修に参加出来る様に働きかけている、また、ホーム内でも勉強会を開き、ケアの向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡協議会を定期的に開き、情報の交換や交流を行っている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問して情報を聞き、職員全員が共有する。入居されてからも時間をかけて入居者の想いに耳を傾け、少しでも安心して頂ける様務めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今までの不安や思いを共有し、現状を把握する中で要望などに耳を傾けながら信頼できる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族の想いを汲み取り、心身の状況や要望・意見を聞きながら適切なサービスの提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の想いや、要望などを聞きながらお互い暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報と双方の思いを大切にしながら支えていける関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関わりを大切にしながら、人や場との交流が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格の把握に努め、相性を配慮し心地よい関係で生活出来る様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても必要に応じて相談や支援を行うよう務めている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思い、希望を傾聴し把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族・馴染みの方の協力をお願いし情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に以前の生活歴などを伺い、記録に残し職員全員が把握し、また日々の会話の中でも新しい情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの好みや気持ち、ペースに合った過ごし方が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の入居者様のモニタリングをミーティング時に職員間で話し合い、入居者様の現状に合った課題やケア方針を介護計画に反映し、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気付きは個人記録に記入し、項目の欄や実行表を活用し情報を共有している。又、介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や、ご家族の状況を把握し様々な方向からサービスを検討し、現状に合った対応に努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動へ参加することによって、楽しみや生きがいを持って暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療を開業している当理事長を信頼して入居される方が多く、その関係を継続しつつ他の医療も視野に入れ適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所の看護職員にその都度相談出来、見極めを行い必要に応じた適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間は入居者様やご家族に不安がない様面会や話し合いを行い、病院の相談員を含め退院の計画を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、その後、終末期、その都度話し合いを重ねお互いが納得し職員も思いを共有して、チームでのケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会、消防署による講習会を職員全員が参加できるように設け、訓練や技術の習得が出来る様に実践できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	日中・夜間時の災害や自然災害へ対応できるように定期的に避難訓練を実施している。 又、地域の消防団員にも参加して頂き、協力体制を整えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、人格を尊重した言葉遣いや声かけを行っている。職員間でも話し合い協力をしながら支援のあり方を検討している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して入居者様の思い、自己決定が表現出来る様、一人ひとりの自己決定に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その中で一人ひとりの生活のペースに合わせ、その方の希望に沿った生活が送れるように支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族、入居者様に確認しながらその人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中での食事が楽しみとなる様に、一人ひとりの好みを把握しその方の状態に合わせ、入居者様と職員と一緒に調理、準備などを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を把握・確認し、入居者様の好まれる物を食事・水分に取り入れる他、形状・食器類の工夫を行い提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じた口腔ケアの声かけ・介助を行っている。口腔内の清潔を保つため、入居者様に合った口腔ケア道具の使用も検討している。

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄習慣を活かし、できるだけトイレでの排泄を促し、汚染や失禁の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を共有・活用して、一人ひとりに合った対策を考え工夫している。又、体操や運動も取り入れ便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備し、一人ひとりの希望に添える様、時間や順番に配慮し個々の好みの温度でゆっくり入ってもら。温泉や足湯に出掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせて休んで頂く。寝具・温度調整を行い、心地よい眠りに就ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を個々に分かりやすい様に記入し、変更時も確認しあい、マニュアルに沿った支援をしている。又、分からない事は主治医に尋ね、入居者様の状況把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が食べたい嗜好品を購入し、食事にも取り入れるなど気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出を計画している。入居者様に合わせた外出支援を行っている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する時は必ず財布を持っていき、入居者様が買い物をする楽しみを持ち、自らお金を使う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望や、こちらからの声かけにて電話をかけ、ハガキなどを書けない方は代筆をし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面や生活しやすい空間づくりに心がけ、季節を身近に感じてもらえる様、草花や絵を飾り心地よい場所を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・テーブル席・ソファを置くなどしてそれぞれが居心地の良い場所でゆったりとした暮らしができる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のなかでは使われているものの配置、飾り物、写真などを置いて安全で安心した暮らしができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの力量で安全に生活できるよう見極めを行い、目線に合わせた工夫をして毎日が過ごせるように日々確認をしている。		